

議事概要 令和3年度第2回益田市ひとづくり推進本部・推進委員合同会議

日 時 令和3年10月18日（月）13：30～15：30

場 所 益田市常盤町1番1号 益田市役所3階 大会議室

出席者 【ひとづくり推進本部】

山本市長、河上副市長、高市教育長、島田政策企画局長、藤井総務部長、  
山本健康子育て推進監、梅津産業経済部長、野村教育部長、大畑ひとづくり推進監

【ひとづくり推進委員】

志田原政策企画課長、田原連携のまちづくり推進課長、又賀子ども福祉課長、  
潮産業支援センター所長、桐木農林水産課長、  
田原学校教育課長、松元学力育成推進室長

【事 務 局】

協働のまちづくり推進課・政策企画課

【中間支援組織】

NPO 法人豊かな暮らしラボトリー

議 事

(1) 各部会の取組状況報告（補足・意見・検討事項等）

○地域の担い手づくり部会

- ・担当職員や担当課が業務上ひとづくりへの関わりがあるのは分かるが、市役所全体としても、例えば業務委託の内容に抵触しない範囲で職員にひとづくりの活動への参加を促すなどして、職員の理解促進や若手職員の育成につなげる取組があってもよいのではないか。
- 連携のまちづくり推進課や協働のひとづくり推進課で、協働推進ネットワーク会議などの既存の枠組みも活用しながら呼びかけていくことを検討したい。
- ・取組状況報告の内容からマルチワーク（有償型インターンシップの開催等）を推進するような関係人口増加のための取組も必要だと思われる。  
連携のまちづくり推進課と産業支援センターとで協力して検討してほしい。
- ・関係人口創出事業について、圏域で実施した総務省の補助事業との関連はあるか？  
直接の関連はなくとも、参加した人たちのネットワークづくりや事業者側のネットワークづくりを促すなど、何らかの関連性を持たせていくことも有効だと思われるので検討してほしい。

#### ○産業の担い手づくり部会

- ・農業の担い手育成だけでなく、益田の農業全体を支える好循環が必要だと思われる。  
ひとまるビジョンでの翔陽高校での菜園活動が学校給食に活かされるなどの紹介は、わかりやすい事例であったとも思う。
- ・地産地消と生業としての農業をどのように両立させていくかはなかなか難しい課題。  
実家が農家でもない限りなかなか農業をやろうという人がいないのが実情ではないか。この点について、例えばどのように教育などで知ってもらおうとしているのか。  
→まずは給食などで体感し、益田の生産者について知ってもらうことが重要だと考えている。また、益田には翔陽高校という農業が学べる学校があるので、そこを進路の選択肢に加えてもらうなども方法の一つ。市の施策としても農業従事者の確保は重要な課題なので、人材育成や施設整備にかかる支援も、実際の就農支援としては実施していきたいと考えている。

#### ○未来の担い手づくり部会

- ・島大生が参加から参画へということで、企画にも関わってくれようとしているのは、積極的・意欲的な取組として頼もしい。

#### ○部会間連携報告

##### ア 地域 → 未来

- ・住民の自治活動に行政が介入して関わって方向づけしていくのではなく、自治組織が独立して運営していくにはどのような関わり方が必要だと考えているか。  
→行政が全部を丸抱えするのではなく、声掛けや助言という形で、徐々に自治組織が自立していくことを促していく。
- ・自立といたっても、人は決して一人では立つことはできず、支えあって助け合う関係にあるので、時には行政の方が自治組織に助けられることもあるだろう。関係性を持続させることも重要である。

##### イ 産業 → 未来

- ・産業の担い手づくり部会の取組状況報告の補足となる内容であった。

#### (2) 協働の事例紹介

- ・次回3月の会議でまとめて報告することとし、質疑応答は省略

#### (3) その他

- 公式ウェブサイトリニューアルに併せた「ひとづくり施策」の情報発信
- 市広報を活用した「ひとづくりに関わる若手職員の想い」の掲載について
  - ・若手職員の想いが掲載されることは楽しみである。挑戦的な記事を期待したい。

※次回開催予定 : 3月 開催時間含め開催方法について推進委員レベルで再考すること